



スポハラ(スポーツ・ハラスメント)のないスポーツ界を目指して

柔道オリンピック 中村美里さん・谷本歩実さん・塚田真希さん



スポハラをなくすために3人のメダリストが語り合う

好きで始めて、夢中で練習してきたスポーツが、暴力、暴言、嫌がらせなどのスポハラで、嫌になってしまふ。こんな悲しいことはありません。スポハラをなくして、誰もが安全に、安心してスポーツを楽しめる環境をつくるのが「NO! スポハラ」活動です。今回は、その活動の1環として行われた、柔道のオリンピックメダリストの3名による対談の内容からお伝えします。(対談の全文は「NO! スポハラ」ホームページに掲載)

一人ひとりのNOの声がスポハラをなくす

10年ほど前、柔道女子日本代表選手らが、監督やコーチから暴力的な指導があったと訴え、社会に衝撃を与えた出来事がありました。この出来事は柔道界だけでなく、スポーツ界から暴力をなくそうという活動へと広がるきっかけとなりました。対談ではこのことについて、「選手がNOと声を挙げたのは、決して自分のためだけではなく、これから選手になる人たちはもちろんのこと、スポーツの将来のために」

谷本歩実さん
2004年 アテネオリンピック 金メダル
2008年 北京オリンピック 金メダル

「NO! スポハラ」活動は、日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会、日本パラスポーツ協会、日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟、大学スポーツ協会の6団体共同で行っています



塚田真希さん
2004年 アテネオリンピック 金メダル
2008年 北京オリンピック 銅メダル

ではいけないと思っただけで、勇気を出して行動したのだと思う」と話してくれました。現在、スポーツに打ちこんでいる人に伝えたいこととして、「指導者から言われたことに何か疑問を感じたら、自分の考えや気持ちを伝えることが大切です。さらに『これってスポハラかも?』と感じたら、NOと言ってください。それはとても勇気のいることだけれど、一人ひとりのNOの声が集まれば、スポハラをなくす力になり、みんながよりスポーツを楽しめますから」と、メッセージをくれました。

自分で決めたから続けられる

ずっと柔道が続けてこれたことについては、「私たちは誰かに柔道をやらされたのではなく、自分が柔道が好きでやりたいから、厳しい練習も続けることができました。どんなスポーツでも自分でやるんだと決めることが、長く続けられることにつながると思っていますね」と語っていました。そしてスポーツの価値について、こんな話もしてくれました。「今はインターネットで簡単に人と人がつながる時代かもしれませんが、実際に相手と接する中で生まれるコミュニケーションはとても尊いものです。相手を思い、自分を思い、対話を重ねながら、共に感動したり負けた悔しさや、味わったり、かけがえのない体験がスポーツには凝縮されています。それらを通じて、人としても成長できるのではないのでしょうか。」



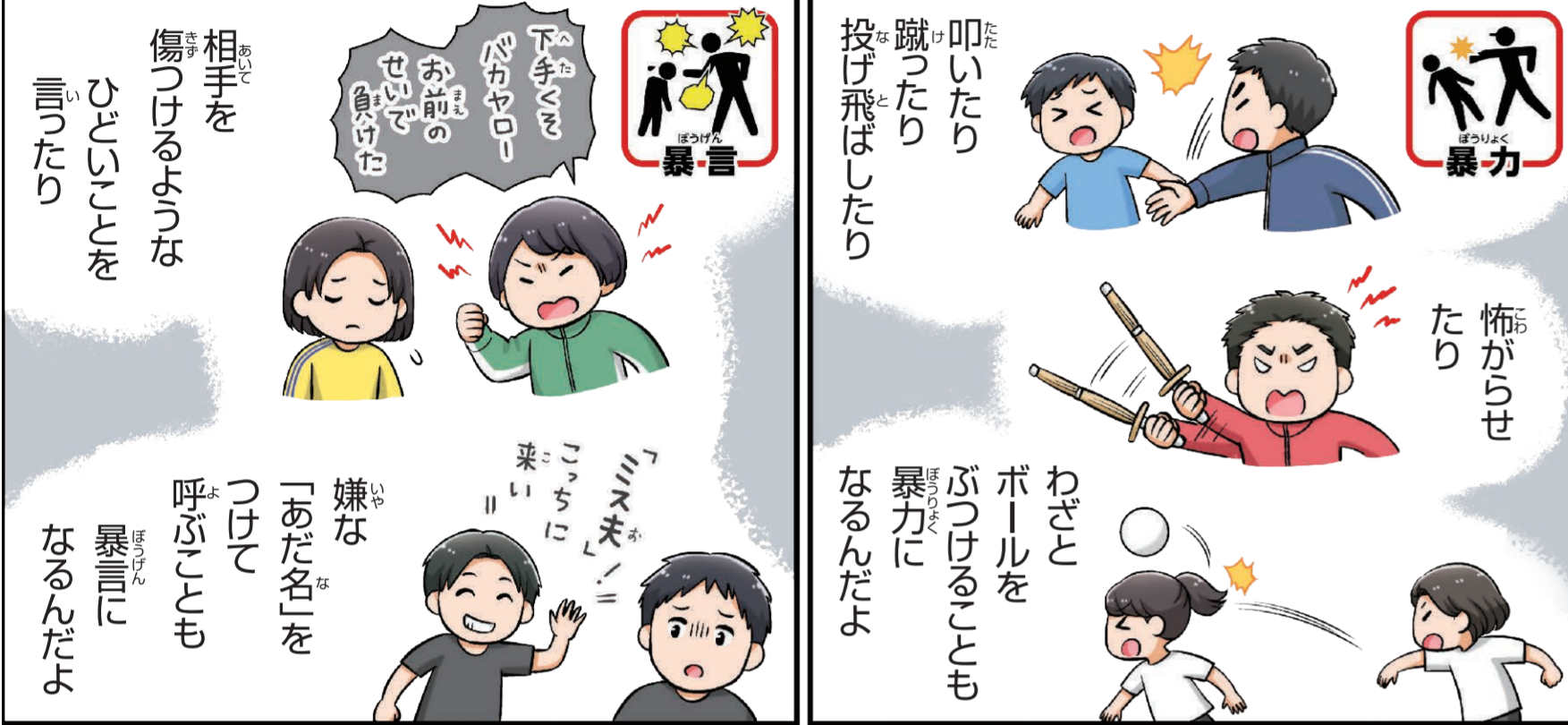
スポハラ(スポーツ・ハラスメント)ってどんな行為?

スポーツ・ハラスメントを略して「スポハラ」

スポーツをする人、見る人、支える人に対して嫌なことをすることでスポーツを楽しむことができないようにすることだよ



「スポハラって知ってる?」
「嫌がらせってどんなこと?」
「もう少し詳しく教えて」



「これってスポハラかも」って思うことをされたり見たりしたら、一人で悩まないで、お父さんやお母さん、先生など信頼できる周りの大人に相談しよう

みんながスポーツで嫌な思いをしないように力になってくれるよ



どうしても解決できない時は、専門の人が相談のってくれるところもあるよ!

JSPO 相談窓口 **03-6910-5827** 24時間WEBでも相談できます
JSPO 子ども相談

